

帝キネ時代映畫

脚色者 高井清太郎  
監督者 佐藤樹一路  
撮影者 立花幹也  
主演者 實川延松  
紹介 第三百一號

小咄風に輕妙に描かれた時代映畫。そして笑殺し乍らも何か大衆に教ふる所がある様なものを持つて居る。此の種の作品は眞統を云へば教育映畫として推賞されてもいい。四角面に描がれ作られる教育映畫よりも、その教化力は遙かに効果的である。一人の大王が珍魚を二ひ當てて賞金を貰ひ、それに味を占めて再び珍魚を出鱈目に云つて、最初から總て偽瞞した出鱈目だつたことが發覺し入牢するが、その子の親思ふ眞情さ奇智さで許されるさいふ此のテーマには小咄以外、何等の生きたものを見出さないのに不思議に人間の氣持をユーモラスに描いて行く點、脚色者の焦點の付け方の凡ならざるを察するところが出来る。が惜しむべきは主演者の低級な不自然極まる喜劇的動作さ、最も高潮すべき子役の點出のテンポが餘りに最後まで漫然たること並びにその子役の演出が雅拙であつたことであつた。紋十郎の奉行はワキ役乍ら、光つて其の人らしかつた。監督は喜劇化さうさして却つて酸ぐくなつてゐた。(寫眞版紹介號)

水町香磁

興行價値——頗る面白いが、時代劇の中にあつては添物以上にはならない。併し各方面に歡迎されるユーモラスな愉快さを持つて居る。(七月廿二日 大阪芦邊劇場、神戸相生座封切)